

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-228659

(P2010-228659A)

(43) 公開日 平成22年10月14日(2010.10.14)

(51) Int.Cl.		F I		テーマコード (参考)	
B 6 0 J	5/04	(2006.01)	B 6 0 J	5/04	H
E 0 5 B	1/00	(2006.01)	E 0 5 B	1/00	3 0 1 B

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2009-80018 (P2009-80018)	(71) 出願人	000005326
(22) 出願日	平成21年3月27日 (2009. 3. 27)		本田技研工業株式会社
			東京都港区南青山二丁目1番1号
		(74) 代理人	100064908
			弁理士 志賀 正武
		(74) 代理人	100108578
			弁理士 高橋 詔男
		(74) 代理人	100146835
			弁理士 佐伯 義文
		(74) 代理人	100094400
			弁理士 鈴木 三義
		(74) 代理人	100107836
			弁理士 西 和哉
		(74) 代理人	100108453
			弁理士 村山 靖彦

最終頁に続く

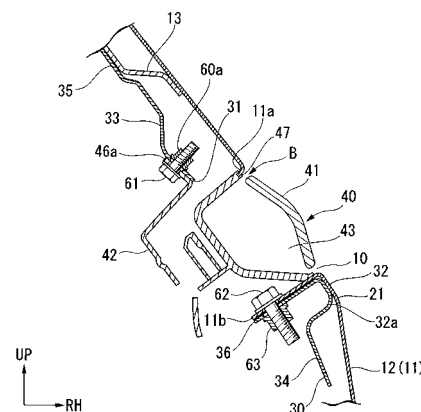
(54) 【発明の名称】 ハンドル装置の取り付け構造

(57) 【要約】

【課題】 ドアスキン表面からのハンドル装置の突出量を可能な限り小さくする。

【解決手段】 車両のフロントサイドドアの表面に設けられるドアスキン11と、ドアスキン11に設けられるドアアウトハンドル装置40と、を有し、ドアスキン11には、ドアアウトハンドル装置40を表面側に露出するための開口部10が形成され、ドアスキン11の裏面には、ドアアウトハンドル装置40をドアスキン11に固定するためのハンドルパッチ30が開口部10の周縁部に接着されており、ドアアウトハンドル装置40がドアスキン11の裏側からハンドルパッチ30に固定されている。ドアスキン11は、開口部10の周縁部に沿ってドアスキン11の裏側に突出するフランジ部11aを備え、フランジ部11aはドハンドルフレーム42の周壁部47の嵌合溝に嵌合する。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両用のドアの表面に設けられるドアスキンと、前記ドアスキンに設けられるハンドル装置と、を有し、

前記ドアスキンには、前記ハンドル装置を表面側に露出するための開口部が形成され、前記ドアスキンの裏面には、前記ハンドル装置を前記ドアスキンに固定するための取り付けブラケットが前記開口部の周縁部に接着されており、

前記ハンドル装置が前記ドアスキンの裏側から前記取り付けブラケットに固定されていることを特徴とするハンドル装置の取り付け構造。

【請求項 2】

前記ドアスキンは、前記開口部の周縁部から連続し、前記ドアスキンの裏側に突出して形成された突出部を備え、

前記突出部と前記取り付けブラケットとが、前記ドアスキンの表裏方向に直交する方向でねじ締結されることを特徴とする請求項 1 記載のハンドル装置の取り付け構造。

【請求項 3】

前記ドアスキンは、前記開口部の周縁部に沿って該周縁部から連続し、前記ドアスキンの裏側に突出して形成されるフランジ部を備え、

前記ハンドル装置には、前記フランジ部に前記ドアスキンの裏側から嵌合する嵌合部が形成されていることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載のハンドル装置の取り付け構造。

【請求項 4】

前記ドアスキンの上端部には、該ドアスキンの裏側から取り付けられた補強部材が設けられ、前記取り付けブラケットの一部が前記補強部材に固定されていることを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載のハンドル装置の取り付け構造。

【請求項 5】

前記ドアスキンは略水平方向に沿って形成された折れ部を備え、前記取り付けブラケットは前記折れ部に接続されていることを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載のハンドル装置の取り付け構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、車両用ドアにおけるハンドル装置の取り付け構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、車両用ドアのアウトパネルを構成するドアスキンの表面にドアアウトハンドル装置を取り付ける場合には、ドアスキンの外側から取り付けている（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開平 7-17247 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、ドアアウトハンドル装置をドアスキンの表面にその外側から取り付けた構造では、ドアスキンの外側に突出するドアアウトハンドル装置の突出量が大きいため、大きな空気抵抗が発生するという課題がある。また、外観上目立つため、意匠上の問題となる場合がある。

【0005】

そこで、この発明は、ドアスキン表面からのハンドル装置の突出量を可能な限り小さく

10

20

30

40

50

することができるハンドル装置の取り付け構造を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

この発明に係るハンドル装置の取り付け構造では、上記課題を解決するために以下の手段を採用した。

請求項１に係る発明は、車両用のドア（例えば、後述する実施例におけるフロントサイドドア１）の表面に設けられるドアスキン（例えば、後述する実施例におけるドアスキン１１）と、前記ドアスキンに設けられるハンドル装置（例えば、後述する実施例におけるドアアウトハンドル装置４０）と、を有し、前記ドアスキンには、前記ハンドル装置を表面側に露出するための開口部（例えば、後述する実施例における開口部１０）が形成され、前記ドアスキンの裏面には、前記ハンドル装置を前記ドアスキンに固定するための取り付けブラケット（例えば、後述する実施例におけるハンドルパッチ３０）が前記開口部の周縁部に接着されており、前記ハンドル装置が前記ドアスキンの裏側から前記取り付けブラケットに固定されていることを特徴とするハンドル装置の取り付け構造である。

【０００７】

請求項２に係る発明は、請求項１に記載の発明において、前記ドアスキンは、前記開口部の周縁部から連続し、前記ドアスキンの裏側に突出して形成された突出部（例えば、後述する実施例における舌片１１ｂ）を備え、前記突出部と前記取り付けブラケットとが、前記ドアスキンの表裏方向に直交する方向でねじ締結されることを特徴とする。

【０００８】

請求項３に係る発明は、請求項１または請求項２に記載の発明において、前記ドアスキンは、前記開口部の周縁部に沿って該周縁部から連続し、前記ドアスキンの裏側に突出して形成されるフランジ部（例えば、後述する実施例におけるフランジ部１１ａ）を備え、前記ハンドル装置には、前記フランジ部に前記ドアスキンの裏側から嵌合する嵌合部（例えば、後述する実施例における嵌合溝４７ａ）が形成されていることを特徴とする。

【０００９】

請求項４に係る発明は、請求項１から請求項３のいずれか１項に記載の発明において、前記ドアスキンの上端部には、該ドアスキンの裏側から取り付けられた補強部材（例えば、後述する実施例におけるドアスキンスティフナ１３）が設けられ、前記取り付けブラケットの一部（例えば、後述する実施例における上延フランジ部３５）が前記補強部材に固定されていることを特徴とする。

【００１０】

請求項５に係る発明は、請求項１から請求項４のいずれか１項に記載の発明において、前記ドアスキンは略水平方向に沿って形成された折れ部（例えば、後述する実施例における折れ部２１）を備え、前記取り付けブラケットは前記折れ部に接続されていることを特徴とする。

【発明の効果】

【００１１】

請求項１に係る発明によれば、ドアスキンの裏側に接着される取り付けブラケットを介して、ドアスキンの裏側からハンドル装置が取り付けられるので、開口部からのハンドル装置の突出量を極力抑えることができる。したがって、空力的に有利で、外観上すっきりしたハンドル装置の取り付け構造を提供することができる。

【００１２】

請求項２に係る発明によれば、ドアスキンと取り付けブラケットを接着する際に、お互いが密着するように保持することができるので、確実な接着を行うことができる。

また、ドアスキンと取り付けブラケットとの組み付けバラツキを調整して、確実な接着を行うことができる。

【００１３】

請求項３に係る発明によれば、ハンドル装置を開口部に対して容易に位置決めすることができる。

10

20

30

40

50

請求項４に係る発明によれば、補強部材に取り付けブラケットを固定することで、ドアスキンの剛性をさらに高めることができる。

請求項５に係る発明によれば、取り付けブラケットの固定強度を高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【００１４】

【図１】この発明の実施例における車両用のドアを車室外側から見た外観斜視図である。

【図２】前記実施例の車両用ドアを車室外側から見た分解斜視図である。

【図３】ドアアウトハンドル装置の取り付け部位を車室外側から見た拡大図である。

【図４】図１のＡ－Ａ断面図である。

【図５】図４のＢ部拡大図である。

【図６】実施例におけるドアアウトハンドル装置の外観斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１５】

以下、この発明に係るハンドル装置の取り付け構造の実施例を図１から図６の図面を参照して説明する。尚、図において車両の上側をＵＰ、右側をＲＨ、前側をＦＲとして示す。

図１は、この実施例における車両用のドアの外観斜視図であり、図２は同分解斜視図である。この実施例におけるドアは所謂サッシュレスタイプのフロントサイドドアである。このフロントサイドドア１はアルミ材により枠状に形成されたドア本体２を備えている。具体的にはドア本体２は、前側部を構成する前フレーム３と後側部を構成する後フレーム４と、前フレーム３と後フレーム４の上端部と下端部をそれぞれ連結する上フレーム５と下フレーム６とで枠状に形成されている。

【００１６】

ここで、前フレーム３と後フレーム４はアルミ材をプレス成形して形成され、上フレーム５と下フレーム６はアルミ材を押出成形した後にトリミング加工して形成される。

前フレーム３はヒンジ装置（図示略）を介して車体に支持されており、これによりフロントサイドドア１は車体に開閉可能に取り付けられている。

前フレーム３の上部には図示しないドアミラーが取り付けられるミラーベース７が形成されている。前フレーム３と後フレーム４との上下方向略中央部に、両者に跨って車室外側にドアビーム１４が固定されている。

【００１７】

ドア本体２の外側にはフロントサイドドア１のアウトパネルを構成するドアスキン１１が取り付けられている。ドアスキン１１には、高さ方向の上端部寄りに略水平方向に延びる折れ部２１が車両前後方向に渡って形成されている。この折れ部２１は、車室外側に凸となる部位であり、ドアスキン１１の面剛性、及びフロントサイドドア１の上端のドアガラス２０の開口部の剛性を確保している。

【００１８】

ドアスキン１１には、その後端部であって折れ部２１の上部に、ドアアウトハンドル装置４０のハンドル部４１を露出するための開口部１０が形成されている。この開口部１０の形状は、後述するドアアウトハンドル装置４０のハンドルフレーム４２における周壁部４７に整合している。

また、ドアスキン１１には、後端上部に裏側からドアアウトハンドル装置４０を取り付けるためのハンドルパッチ（取り付けブラケット）３０がドアスキン１１の開口部１０の周りに取り付けられると共に、上縁部に三角形のドアスキンスティフナ（補強部材）１３が取り付けられている。尚、これらハンドルパッチ３０とドアスキンスティフナ１３は一体化されてドアスキン１１に接着固定されるが、図２では図示の都合上、ドア本体２側に示している。

【００１９】

図２に示すように、前フレーム３と後フレーム４と上フレーム５と下フレーム６とで形成された開口部１５を車室内側から覆うように、ドアガラス２０を昇降するためのレギュ

10

20

30

40

50

レータユニット 16 のベースプレート 17 がドア本体 2 に取り付けられている。このベースプレート 17 がドアスキン 11 に対応するドアインナパネルとして機能している。

【0020】

ドアスキンスティフナ 13 は、ドアスキン 11 の上端部の内側であって、ドアスキン 11 の上端部に沿ってドア本体 2 の車両前後方向に延在する部材であり、ドアスキン 11 の上端部分の剛性を高める補強材である。

ドアスキン 11 の上端部が車室外側から内側に回り込むようにしてドアスキンスティフナ 13 の上縁部に巻き締めにより接続されている。

【0021】

ドアスキンスティフナ 13 の両端部 13 f、13 r（前側の端部 13 f と後側の端部 13 r）は、ドアガラス 20 の側縁部から車両前後方向に突出しており、この両端部 13 f、13 r が、それぞれドア本体 2 の前フレーム 3、後フレーム 4 に車室内側からボルト 18 により固定されている。また、ドアスキンスティフナ 13 の両端部 13 f、13 r から延在方向の中間部に延びる下縁部 13 k が、ドアスキン 11 の折れ部 21 まで下側に延びており、さらに下縁部 13 k に連続して、ドアスキン 11 の折れ部 21 に接続される支持部 13 s が形成されている。

【0022】

ドアスキンスティフナ 13 は、ドアスキン 11 の折れ部 21 に接続される支持部 13 s から両端部 13 f、13 r に各々至る下縁部 13 k が各々斜め上側に傾斜した直線で形成されている。そして、支持部 13 s は接着剤によってドアスキン 11 に接着されており、下縁部 13 k も部分的に接着剤により接着されている。なお、この実施例では、これら接着剤は熱硬化性接着剤で構成されている。

ここで、ドアスキンスティフナ 13 は、ドアガラス 20 を避けてドア本体 2（前フレーム 3 と上フレーム 5）に取り付けられる前後の端部 13 f、13 r の他に、延在方向の中間部が支持部 13 s としてドアスキン 11 の折れ部 21 に接着固定されるため、ドアスキンスティフナ 13 を三点支持することによってドアスキンスティフナ 13 による剛性の向上を十分に確保することができる。

【0023】

図 6 は、ドアアウトハンドル装置 40 の外観斜視図であり、図 3 は、ドアスキン 11 の裏側に、ドアスキン補強用のドアスキンスティフナ 13 とドアアウトハンドル装置 40 が取付けられるドアスキン補強用のハンドルパッチ 30 が取り付けられた状態を、車室外側からドアスキン 11 を透視して見た図である。

【0024】

ドアアウトハンドル装置 40 は、フロントサイドドア 1 に装着した状態において車体前後方向に細長い長円状の指挿入凹部 43 を有するハンドルフレーム 42 と、指挿入凹部 43 に収容され前端部 41 a 側を回動中心として後端部 41 b 側を車室外側に回動可能にハンドルフレーム 42 に支持されたハンドル部 41 とを備えている。ハンドル部 41 は、その前端部 41 a が指挿入凹部 43 の前端部に整合させて配置され、後端部 41 b が指挿入凹部 43 の後端部から離間して配置されており、ハンドル部 41 の後端部 41 b の後方から指挿入凹部 43 内に挿入した指で後端部 41 b を車室外側に回動することによりフロントサイドドア 1 を開扉することができる。

【0025】

ハンドルフレーム 42 は、指挿入凹部 43 に対して上側に配置された 2 つの脚部 46 a、46 b と、指挿入凹部 43 に対して下側に配置された 2 つの脚部 46 c、46 d を備えている。

また、図 4～図 6 に示すように、ハンドルフレーム 42 には、指挿入凹部 43 の外周縁を包囲する周壁部 47 に、嵌合溝（嵌合部）47 a が設けられている。

【0026】

ハンドルパッチ 30 には、ドアスキン 11 の開口部 10 よりも若干大きい開口部 31 が形成されており、この開口部 31 の周縁部に、平坦面からなる接着面部 32 が形成され、

10

20

30

40

50

さらに、接着面部 3 2 の上縁部に連続して形成され車室内側に凹む上側凹部 3 3 と、接着面部 3 2 の下縁部に連続して形成され車室内側に凹む下側凹部 3 4 が設けられている。

上側凹部 3 3 の車室外側の面にはドアアウトハンドル装置 4 0 の脚部 4 6 a, 4 6 b に対応する位置にナット 6 0 a, 6 0 b が固定され、下側凹部 3 4 の車室外側の面にはドアアウトハンドル装置 4 0 の脚部 4 6 c, 4 6 d に対応する位置にナット 6 0 c, 6 0 d が固定されている。

【0027】

ドアアウトハンドル装置 4 0 は、ハンドルパッチ 3 0 の裏側（車室内側）から、周壁部 4 7 をハンドルパッチ 3 0 の開口部 3 1 に挿入させ、ハンドルフレーム 4 1 の脚部 4 6 a ~ 4 6 d をハンドルパッチ 3 0 の上側凹部 3 3 および下側凹部 3 4 の裏側（車室内側）に当接させて、ボルト 6 1 およびナット 6 0 a ~ 6 0 d により締結固定されている。

【0028】

また、ハンドルパッチ 3 0 は、上側凹部 3 3 の上縁部に連続して形成され、上方に屈曲してドアスキン 1 1 と略平行に延びる上延フランジ部 3 5 を有しており、この上延フランジ部 3 5 が、ドアスキンスティフナ 1 3 の後側の端部 1 3 r の下縁部 1 3 k に、車室内側から重合されスポット溶接（図 3 における＊部 6 4）されて、ハンドルパッチ 3 0 とドアスキンスティフナ 1 3 が一体化されている。

また、ハンドルパッチ 3 0 は、接着面部 3 2 に連続して、開口部 3 1 の下側の周縁部の前後方向略中央から略直角に屈曲しドアスキン 1 1 から離間する方向（換言すると、ドアスキン 1 1 の裏側）に延びる屈曲片 3 6 を備え、屈曲片 3 6 の裏面にはナット 6 3 が固定されている。

【0029】

図 4, 図 5 に示すように、ドアスキン 1 1 の開口部 1 0 の周縁部には、この周縁部に連続して形成され、ドアスキン 1 1 の裏側に略直角に屈曲形成されて裏側に突出するフランジ部 1 1 a が、開口部 1 0 の周縁部のほぼ全周に亘って設けられており、このフランジ部 1 1 a はドアアウトハンドル装置 4 0 の周壁部 4 7 に設けられた嵌合溝 4 7 a に嵌合している。

図 2, 図 4 に示すように、ドアスキン 1 1 の開口部 1 0 の下側の周縁部には、フランジ部 1 1 a の一部をさらに車室内側へ延長するように形成された舌片（突出部）1 1 b が設けられている。この舌片 1 1 b はハンドルパッチ 3 0 の屈曲片 3 6 に重合されて、ボルト 6 2 およびナット 6 3 により締結固定されている。つまり、舌片 1 1 b と屈曲片 3 6 はドアスキン 1 1 の意匠面 1 2 の表裏方向に直交する方向に軸線に向けたボルト 6 2 によって締結（ネジ締結）されている。

【0030】

そして、ハンドルパッチ 3 0 は、その開口部 3 1 をドアスキン 1 1 の開口部 1 0 に整合させ、接着面部 3 2 の下縁 3 2 a をドアスキン 1 1 の折れ部 2 1 に沿わせて、接着面部 3 2 をドアスキン 1 1 の裏面に接着剤 2 2 によって接合されている。接着面部 3 2 の下縁 3 2 a をドアスキン 1 1 の折れ部 2 1 に接続させることにより、ハンドルパッチ 3 0 の固定強度を高めることができる。なお、この実施例では、接着剤 2 2 は熱硬化性接着剤で構成されている。

また、図 4 に示すように、ドアアウトハンドル装置 4 0 はそのハンドル部 4 1 が僅かにドアスキン 1 1 の意匠面 1 2 から突出するだけ、それ以外の部分は意匠面 1 2 よりも内側に位置している。

【0031】

このフロントサイドドア 1 の組み立て手順を簡単に説明する。まず、ハンドルパッチ 3 0 の上縁フランジ部 3 5 をドアスキンスティフナ 1 3 の後側の端部 1 3 r の下縁部 1 3 k にスポット溶接して、ハンドルパッチ 3 0 とドアスキンスティフナ 1 3 とを一体化しておく。

次に、ハンドルパッチ 3 0 の接着面部 3 2 およびドアスキンスティフナ 1 3 の支持部 1 3 s、下縁部 1 3 k に熱硬化性の接着剤 2 2 を塗布し、接着剤 2 2 を塗布した部分をドア

10

20

30

40

50

スキン 11 の裏面に密着させる。その際に、ハンドルパッチ 30 の開口部 31 をドアスキン 11 の開口部 10 に整合させるとともに、ハンドルパッチ 30 の接着面部 32 の下縁 32a およびドアスキンスティフナ 13 の支持部 13s をドアスキン 11 の折れ部 21 に沿わせて、位置決めする。そして、位置決めしたハンドルパッチ 30 の接着面部 32 とドアスキン 11 との密着状態を保持するために、ハンドルパッチ 30 の屈曲片 36 とドアスキン 11 の舌片 11b とをボルト 62 により締結する。

さらに、ドアスキンスティフナ 13 の両端部 13f, 13r をドア本体 2 の前フレーム 3、後フレーム 4 にボルト 18 によって固定し、ドア本体 2 とドアスキンスティフナ 13 とハンドルパッチ 30 とドアスキン 11 とを一体に組み立てる。

【0032】

この状態で、ドアスキン 11 の意匠面 12 に対する焼き付け塗装を行う。この塗装工程において接着剤 22 を含む熱硬化性の接着剤が硬化し、ハンドルパッチ 30 およびドアスキンスティフナ 13 がしっかりとドアスキン 11 に接着される。

この後、ドア本体 2 の開口部 15 からドアアウトハンドル装置 40 をドア本体 2 とドアスキン 11 との間に挿入し、ドアアウトハンドル装置 40 の周壁部 47 をハンドルパッチ 30 の開口部 31 に挿通させるとともに、周壁部 47 の嵌合溝 47a をドアスキン 11 のフランジ部 11a に嵌め込み、脚部 46a ~ 46d をハンドルパッチ 30 の上側凹部 33、下側凹部 34 に当接させて、ボルト 61 によってナット 60a ~ 60d に締結する。

このようにして、ドアアウトハンドル装置 40 をドアスキン 11 の裏側からハンドルパッチ 30 に固定した後、ドア本体 2 の車室内側にレギュレータユニット 16 を装着し、ベースプレート 17 でドア本体 2 の開口部 15 を塞ぐ。

【0033】

このように構成されたフロントサイドドア 1 によれば、ドアスキン 11 の裏側に接着したハンドルパッチ 30 を介して、ドアスキン 11 の裏側からドアアウトハンドル装置 40 が取り付けられているので、ドアスキン 11 の開口部 10 からのドアアウトハンドル装置 40 の突出量を極力抑えることができる。その結果、空力的に有利で、外観上もすっきりして意匠性の高いフロントサイドドア 1 を提供することができる。

【0034】

また、ドアスキン 11 の舌片 11b とハンドルパッチ 30 の屈曲片 36 とを、ドアスキン 11 の意匠面 12 の表裏方向に直交する方向に軸線に向けたボルト 62 によって締結しているため、ドアスキン 11 とハンドルパッチ 30 との組み付けバラツキを調整することができるだけでなく、ドアスキン 11 の意匠面 12 の焼き付け塗装工程において接着剤 22 を硬化させ接着する際に、お互いが密着するように保持することができ、確実な接着を行うことができる。

【0035】

また、ドアアウトハンドル装置 40 の周壁部 47 に設けた嵌合溝 47a を、ドアスキン 11 の開口部 10 の周縁部に設けたフランジ部 11a に嵌合させているので、ドアアウトハンドル装置 40 を開口部 10 に対して容易に位置決めすることができる。

【0036】

さらに、ドアスキン 11 の折れ部 21 に接続されるハンドルパッチ 30 を、同じくドアスキン 11 の折れ部 21 に支持部 S で固定されるドアスキンスティフナ 13 に固定することで、ドアスキン 11 についてはフロントサイドドア 1 の剛性、及びフロントサイドドア 1 の上端のドアガラス 20 の開口部の剛性を一層を高めることができる。

また、ハンドルパッチ 30 の接着面部 32 の下縁 32a をドアスキン 11 の折れ部 21 に接続させることにより、ハンドルパッチ 30 の固定強度を高めることができる。

【0037】

また、ドアスキンスティフナ 13 とハンドルパッチ 30 は一体化した状態で、ドア組立ラインの塗装工程で接着剤 22 によりドアスキン 11 に固定されるため、両者を別々にドアスキン 11 に取り付ける場合に比較して組み立て作業を効率化することができる。

【0038】

なお、この発明は前述した実施例に限られるものではない。
例えば、車両用ドアとしてフロントサイドドア 1 について説明したが、リヤサイドドアに適用してもよい。

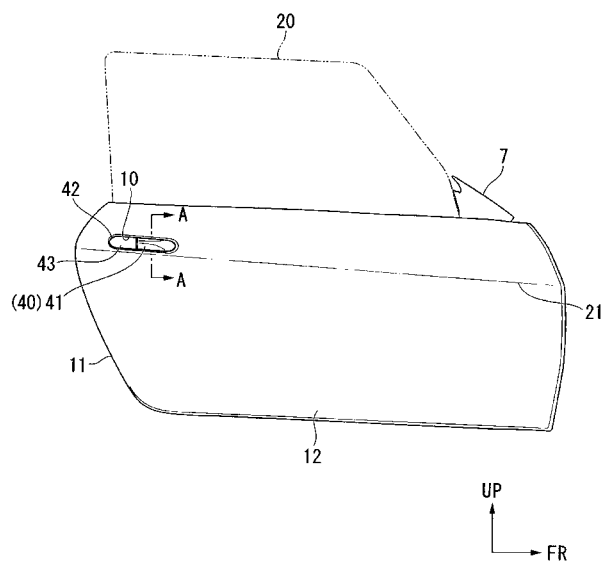
【符号の説明】

【0039】

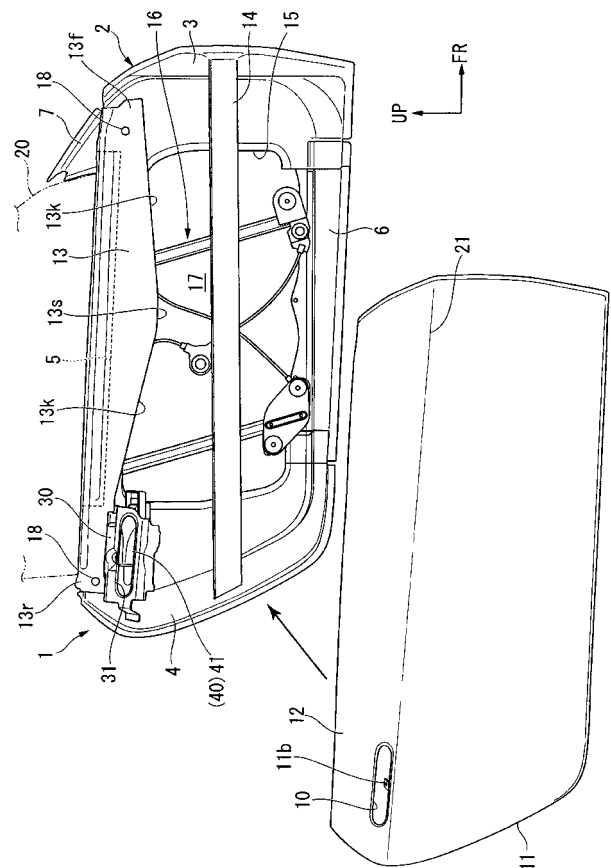
- 1 フロントサイドドア（車両のドア）
- 11 ドアスキン
- 11a フランジ部
- 11b 舌片（突出部）
- 13 ドアスキンスティフナ（補強部材）
- 15 開口部
- 21 折れ部
- 30 ハンドルパッチ（取り付けブラケット）
- 35 上延フランジ部（一部）
- 40 ドアアウトハンドル装置（ハンドル装置）
- 47a 嵌合溝（嵌合部）
- 62 ボルト

10

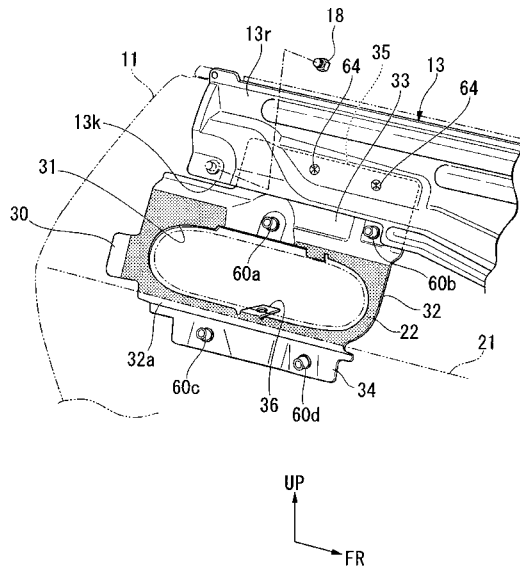
【図 1】



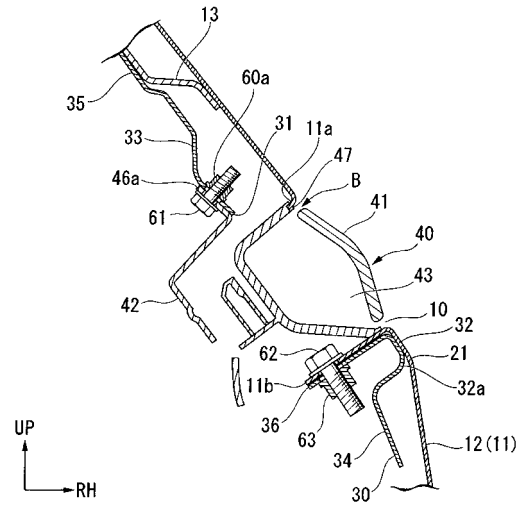
【図 2】



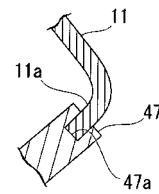
【図 3】



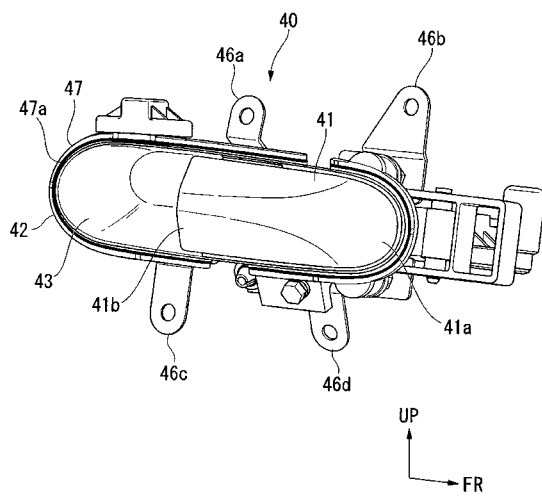
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

- (72)発明者 小林 太
埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
- (72)発明者 小川 大志
埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内